

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

Social Impact Day 2017

人材育成ワーキンググループ (WG)

2017年6月16日

公益財団法人トヨタ財団

1. 人材育成WGの2020年度目標

2020年目標

全国で**1,000名が基礎研修**を修了し、**100名が実践研修**を修了。
社会的インパクト評価に係る**専門講座**が開設。

テーマ小分類 (対象)

- 事業者（経営者・管理者・現場）
- 資金提供者
- 中間支援組織（伴走者）
- 評価専門家

1. ロードマップ（社会的インパクト評価の人材育成）

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

要件整理

以下の事項を整理

- 育成したい人材像
 - (必要な知識・スキル)
 - 育成数の目標
 - 対象地域
 - 実施体制の選定
 - 社会的インパクト評価に関連する既存研修
- ※要件整理に当たっては地域のNPO等も巻き込む

基礎研修実施

※基礎研修＝社会的インパクト評価の理解・実践に有用な基礎的な知識、スキルに関する研修
(既存研修をベース)

研修企画

- カリキュラム
- 教材開発

教材開発の
インプット

講師 育成

実践研修実施

※実践研修＝社会的インパクト評価を実践する上で必要な
応用的な知識・スキルに関する研修

専門講座開設準備(大学等)

専門講座の開設

2. 人材育成WGが2017年度に目指すこと・やること

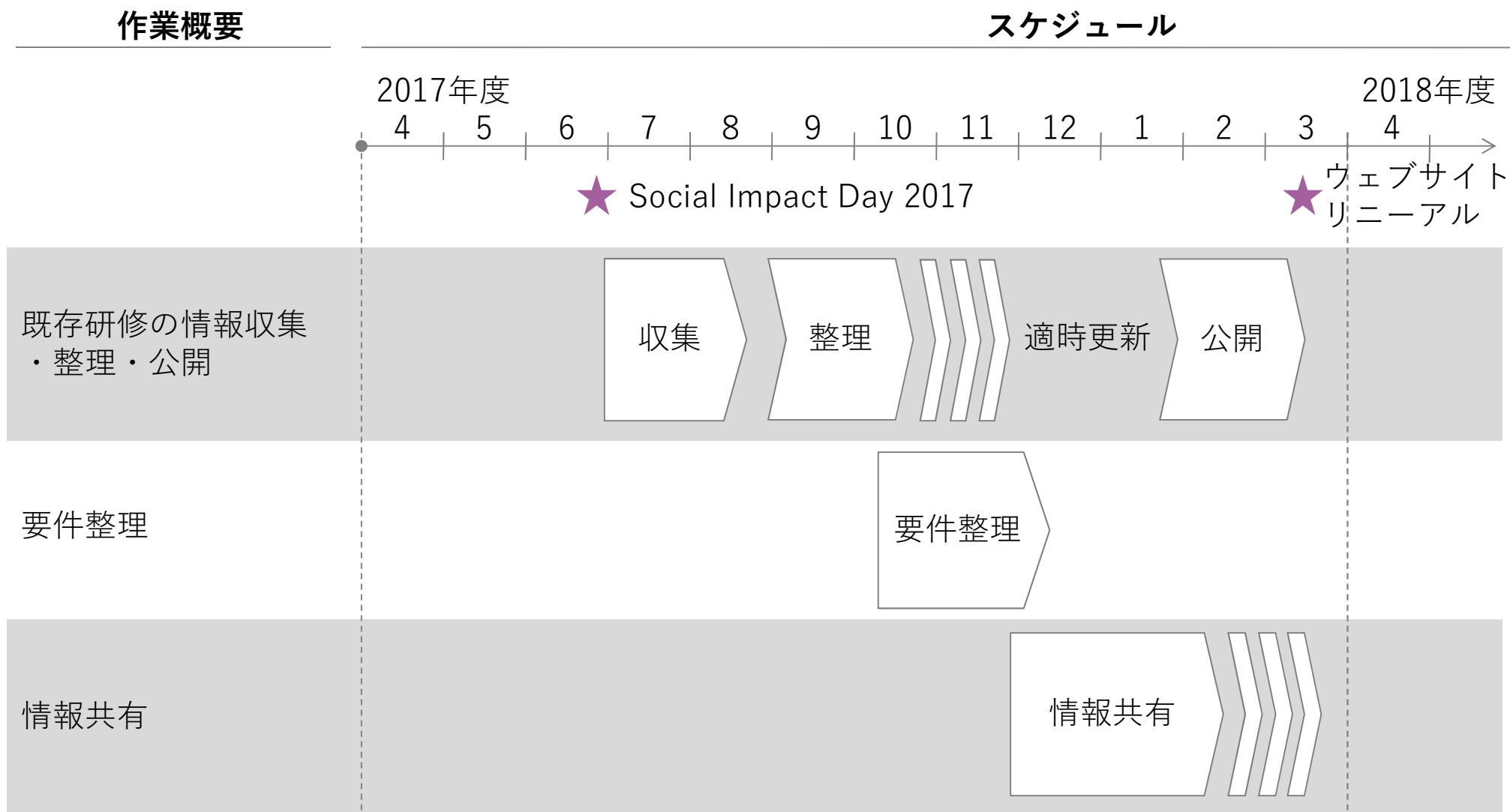
目指すこと

1. 人材育成に必要な研修が明確になっている状態
2. 既存の研修に関する情報の整理・公開

やること

1. **既存の研修に関する情報の収集・整理・公開**
“社会的インパクト評価”に関連する講座や研修の情報を収集し、整理した上でSIMIのウェブサイトに掲載する。
2. **要件整理**
SIMIとして育成したい人材像、知識・スキル、対象地域などを整理する。
3. **イニシアチブ内での情報共有**
人材育成に必要な研修が明確になり、新たに必要な講座や研修についてイニシアチブ内で情報共有を行う。

3. 人材育成WGのアクションプラン



4. 人材育成WGのコアメンバー

コアメンバー

No.	氏名	所属
1	安部 浩	株式会社 山下工芸
2	今田克次	一般財団法人CSOネットワーク
3	◎ 加藤剛	公益財団法人トヨタ財団
4	五井渕 利明	特定非営利活動法人CRファクトリー
5	田中博	参加型評価ファシリテーター
6	津富宏	静岡県立大学
7	土岐三輪	特定非営利活動法人SVP東京
8	原木 英一	一般財団法人 国際開発機構 (FASID)
9	藤枝香織	(一社) ソーシャルコーディネートかながわ
10	源由理子	明治大学
11	毛利 伸也	一般社団法人コ・イノベーション研究所

◎ WGリーダー